

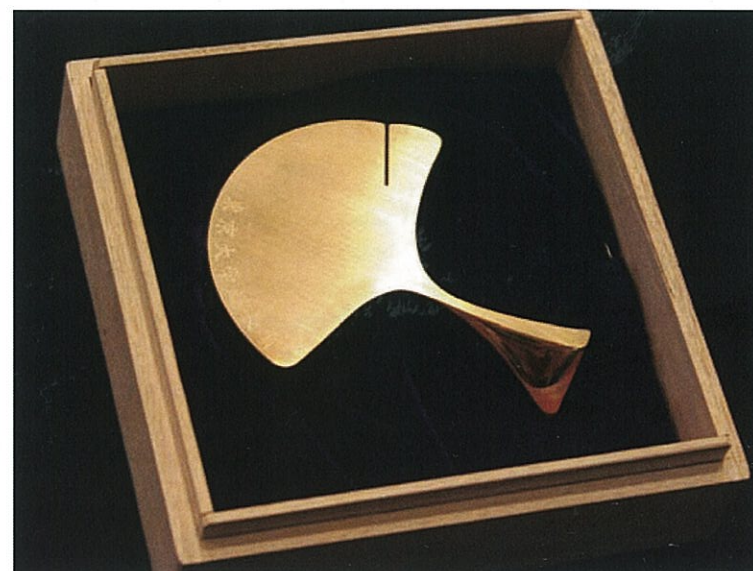
# 式次第

- 1 開 式
- 2 選考結果報告 学生表彰選考会議議長 長谷川 壽 一
- 3 表彰状及び記念品の授与 総長 濱田 純 一
- 4 総長挨拶
- 5 受賞者プレゼンテーション  
総長賞【課外活動・社会活動等】  
工学系研究科 博士課程一年 森西 亨太  
東京大学運動会競技ダンス部  
東京大学運動会剣道部  
大学院生出張授業プロジェクト  
総長賞【学業】  
学際情報学府 修士課程二年 吉田 成朗  
理学系研究科 修士課程二年 泉 拓磨  
情報理工学系研究科 博士課程三年 森本 雄矢  
人文社会系研究科 博士課程三年 日置 貴之  
数理科学研究科 博士課程修了 阿部 健  
理学系研究科 博士課程三年 加藤 英明  
総長大賞  
理学部 四年 保坂 和宏  
理学部 四年 副島 真介  
教養学部 二年 今西 健介  
薬学部 四年 胡 媛  
経済学部 四年 庄司 俊章
- 6 閉 式

平成25年度

# 学生表彰「東京大学総長賞」

## 授与式



平成26年3月20日(木)  
小柴ホール

## 総長賞への言葉



総長賞を授与された皆さん、おめでとうございます。

東京大学総長賞は、個人や団体の活動において、優れた成績を収め、また、そのことが他の構成員や本学の名誉に対して良い影響を与えたことを讃える賞です。皆さんの受賞は、それぞれにこの数年間夢中で取り組んできたことへの成果が認められたものです。

いろいろな機会に私は、「タフ」な東大生、つまり知的なタフさにくわえて、人間的な力や国際的な力を鍛え、たくましい交渉力や大胆な行動力を備えた東大生の輩出を目指すとして申し上げてきました。本賞が、学生の皆さんの

様々な意味での「タフ」さを喚起する良い機会になることを期待しています。

今後ともこの受賞の感動を忘れず、自分自身で選択した領域の活動に邁進し、周囲の人々とともに切磋琢磨してください。皆さんが引き続き輝かしい成果を挙げられますよう応援しています。

最後になりましたが、本日まで協力して下さった関係者各位、及びご参集いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

東京大学総長 濱田 純一

### 「東京大学総長大賞」受賞者・団体紹介

#### 総長大賞



理学部四年 保坂 和宏  
理学部四年 副島 真  
教養学部二年 今西 健介

ACM-ICPC (ACM 国際大学対抗プログラミングコンテスト) は、プログラミングにより数論的問題を解く能力を競う世界最大規模のコンテストである。本大会では、大学生3人のチームに1台のコンピュータが与えられ、5時間で10問程度の問題に対するプログラムを作成する。国内予選・アジア地区予選を勝ち抜いた当チームは、2013年7月にロシア・サンクトペテルブルクで開催された世界大会に本学代表として出場し、3位入賞・金メダル獲得を果たした。日本チームは1998年から世界大会に出場してきたが、これまでの最高結果の銅メダルを超える今回の好成績が高く評価された。



薬学部四年 胡 媛

スギ花粉症は日本では非常に一般的なアレルギー性鼻炎である。従来、花粉症は花粉に含まれている抗原タンパク質に影響されると考えられていたが、花粉症の症状の重さを決定する因子は今まで不明であった。胡氏はカイコを用いて花粉に環境常在細菌が付着していること、ならびにそれらが強い病原性を持っており、宿主に悪影響を及ぼし花粉症の症状を悪化させることを示した。また、同氏の研究成果はカイコを用いて環境リスクを評価できることも示唆していた。学部在学中に研究成果をファーストオーサーとして国際誌や学会で発表し、2013年東京大学環境安全報告書に記載されるなど顕著な業績を収めた。



経済学部四年 庄司 俊章

デフレ脱却を目指すアベノミクスの目玉は、日本銀行の国債大量購入とそれによる物価予想の引上げである。国債購入の有効性の根拠としては、1930年代に同様の政策が有効だったとする研究結果が挙げられることが多い。しかし必ずしもコンセンサスは得られていない。庄司氏は、月次データを用いた既存研究と異なり、日次データを活用した結果、これまで日銀の政策の効果とされてきた債券金利上昇が別要因によるものであり、日銀の政策自体は国債金利をむしろ低下させたという新事実を発見した。新たなデータと厳密な計量経済学的手法に基づく同氏の結果は説得的であり、この現象に関する研究者の理解を一変させるものとして高く評価された。

### 「東京大学総長賞」受賞者・団体紹介

#### 総長賞【課外活動・社会活動等】



工学系研究科 博士課程一年 森西 亨太

数独(Sudoku、ナンバープレース)は、縦横の9列および3×3のブロックに1から9の数字が重複しないように入れていくパズルであり、世界中で親しまれている。また、決められた時間内に解けた問題数や解くスピードなどで実力を競う世界大会が毎年行われている。森西氏は、2012年北京国際数独選手権優勝、世界数独選手権3年連続2位など、世界大会において好成績を収め続け、世界を代表する「解き手」となった。大会以外でもパズル書籍の作成などに関わり、国内外のパズル・数独業界の第一人者として本学の名誉を高めた。



#### 東京大学運動会 競技ダンス部

東京大学運動会に所属する競技ダンス部は、スポーツとしてのダンスを団体競技として競うため、日頃の練習や競技会へは、パートナー校である跡見学園女子大学・東京女子大学・日本女子大学の3校と共に活動・参加している。競技ダンスの種目にはモダン4種目とラテン4種目及びフォーメーション(大学ごとに8カップルが同時に踊るシンクロのような競技)があり、団体成績は各種目の合計点で競われる。2013年度は全日本を含む公式戦6戦のうち5戦で団体優勝を成し遂げた。その大会成績とフォーメーションの年間グランドスラム(全て優勝)達成が高く評価された。



## 東京大学運動会 剣道部

剣道は玄制流空手の流れを汲む武道であり、旋回・跳躍などの動きで攻撃をかわし、その勢いにのせて攻撃を繰り出すアクロバティックな動きを特徴とし、現在、世界12カ国に競技人口を有する。本学運動会剣道部は2012年に開催された全日本剣道選手権大会での優勝を経て、4年に一度開催される世界剣道選手権大会への出場権を初めて獲得し、2013年同大会にて女子部員4名が女子団体法形競技準優勝を果たした。また、続く同年の全国学生剣道優勝大会では総合優勝を飾り、大会六連覇を達成した。これらの全国的・国際的な活躍は多くの本学学生に感動と刺激を与え、その範となるものである。



## 大学院生出張授業 プロジェクト

大学院生出張授業プロジェクト(BAP)は、中・高校生に研究者を身近に感じてもらい最先端の研究について知ってもらうことを目的とし、本学大学院生が講師として母校に赴き研究分野や研究生生活について授業を行う団体である。BAPでは出張授業の内容や交渉を改善していくための“BAP System”を構築し、改良を重ねてきた。活動は6年目を迎え出張授業は100件を突破し、5000名以上となる生徒は全国で大学・大学院に進学し、出張授業の新たな担い手になる可能性が出てきた。また、出張授業を文化にするべく他大学へも広める活動を行うなど、継続的かつ発展性の高い社会活動が高く評価された。

## 総長賞【学業】



学際情報学府 修士課程二年

## 吉田 成朗

吉田氏は、「悲しいから泣く」のではなく「泣くから悲しい」という認知心理学の知見を工学に応用し、疑似的な身体反応のフィードバックによって任意の感情を人工的に喚起する手法の構築に取り組んだ。画像処理を用いて疑似的に生成した表情を自身の実際の表情であるかのように見せることで、感情体験に影響を与える鏡型のシステムを構築した。このシステムによって、快・不快感情を喚起することができ、また、選好判断をも操作できることを明らかにした。これらの成果は国内外の学会で発表されただけでなく、グッドデザイン賞を含む複数の賞を受けるなど、学術領域内外で高く評価されている。こうした活躍や研究内容の独創性が高く評価された。



理学系研究科 修士課程二年

## 泉 拓磨

質量が太陽の数百万倍以上にも及ぶ「巨大ブラックホール」の形成・成長機構を解明することは天文学における最重要課題の一つである。泉氏は、南米アタカマで始動したミリ波サブミリ波干渉計「アルマ」を用い、星間物質に深く埋もれて従来の観測では見通すことのできない、成長途上にあるブラックホールを探し出す手法を発見・提唱した。また、ブラックホールへの直接的な質量供給源として、その近傍のガス円盤が機能していることを観測的に初めて示した。これらは国際電波科学連合のアジア環太平洋会議 AP-RASC '13にて Student Paper Competition 第一位を受賞するなど、その先進性が高く評価された。



情報理工学系研究科 博士課程三年

## 森本 雄矢

体外において構築された骨格筋の3次元組織は、医療、創薬のみならず、人工食肉や工学的な駆動素子としても注目を集めている。しかし、従来の方法で作製された骨格筋は収縮運動を継続して行うことができず、応用できる分野が限られていた。そこで森本氏は骨格筋細胞が包埋されたゲルブロックを任意の位置に積層する方法を考案し、リンク機構上の適切な位置に骨格筋を構築することで拮抗筋構造を実現した。拮抗筋構造では骨格筋の継続的な収縮運動が可能になるだけでなく、生体の骨格筋の収縮率に近い収縮運動も可能になることを明らかにした。本成果は第4回育志賞を受賞するなど、その業績と展開可能性の高さが評価された。



人文社会系研究科 博士課程三年

## 日置 貴之

従来の幕末・明治期の歌舞伎に関する研究は、江戸・東京の大芝居(大劇場)における上演演目や、その作者・役者等に関する考察に集中しており、上方劇壇や小芝居に対する目配りは相対的に不足していた。日置氏は、台本に加えて番付や錦絵、新聞といった周辺資料を用いて、江戸・東京と上方、大芝居と小芝居の双方に目を向けた作品研究を行い、この時期の江戸・東京劇壇と上方劇壇の相互的な影響関係の諸相を明らかにした。これによって、当時の代表的狂言作者である河竹黙阿弥とその門弟の作風をより詳細に把握し、また従来の歌舞伎史では軽視されがちであった幕末から明治前期の上方歌舞伎の演劇史的意義を再評価するなど、より立体的な幕末・明治期の歌舞伎史を構築した。



数理学研究科 博士課程修士

## 阿部 健

微分方程式のうち独立変数が複数個あるものを偏微分方程式と呼ぶ。偏微分方程式は自然界における様々な物理法則を記述する際に用いられる。例えば流体力学の基礎方程式であるナビエ・ストークス方程式は大気や海流のシミュレーションや血流、液晶モニターなど様々な流体運動解析の基礎になっている。阿部氏はこのナビエ・ストークス方程式の数学解析において、その基礎となるストークス流の平滑化についての未解決問題を解決した。この研究成果は国際数学雑誌 Acta Mathematica に掲載された。また本学と早稲田大学が行う日独共同大学院においてもドイツ人研究者と共同で研究成果を挙げるなど、国際的な活躍も顕著である。



理学系研究科 博士課程三年

## 加藤 英明

脳は多数の神経細胞から成る回路であり、その機能を調べる為に様々な実験技術が開発されてきた。加藤氏は、光駆動性イオン輸送体を用いて特定の神経細胞の活動を操作する“オプトジェネティクス技術”に着目し、興奮性ツールとして利用されているNa<sup>+</sup> 取込チャネルのChR<sub>2</sub>、次世代の抑制性ツールとして期待されているNa<sup>+</sup> 排出ポンプのKR2の立体構造を解明した。電気生理学的手法等を取り入れることで両者のイオン輸送機構を明らかにすると共に、吸収波長の変化した改良型ツールを設計する新規手法を提唱した。これらの結果は複数の神経細胞が協調的に働く仕組みを解明することに繋がる成果であり、その研究実績が高く評価された。